



高校総体に向け練習に頑張る玲菜さん（北湯湖）

森深い和泉地区でカヌー競技に取り組んでいる大野高校2年生の藤田玲菜さん取材しました。

本格的に競技としてカヌーに取り組み始めたのは昨年の五月ごろからで、今年六月に行われた高校総体のフラットウォーターレーシング県予選では見事優勝しました。「スタートの時に緊張で胃が痛くなったけど、一位でゴールできて嬉しかったしホッとした。負けるとやっぱり悔しいですが、大会で勝てたり、タイムが上がったりするとすごく嬉しいです」と話してくれました。現在、八月に佐賀

カヌー豆知識

カヌーにはカヤックとカナディアンカヌーの2種類があります。

カヤック：イヌイット民族が使っていた、アザラシの皮を貼って作った袋状のカヌー。



カヤック

カナディアンカヌー：北米のインディアンが使っていた、木をくりぬいた丸木舟の様な形をしたカヌー



カナディアンカヌー

※福井県発行の「水辺で遊ぼう学ぼう！」より引用

競技歴一年余で高校総体出場

カヌーに乗って自分にチャレンジ!!



キャラクターデザイン
坂本裕子さん（富塚）

てくてく レポート

①

～リポーターが
お伺いします～



リポーター

たけうち みちよ
竹内 徳代さん
(30歳 国時町)

趣味は演劇と弓道。高校時代に劇団チャップスに所属し現在も活動中です。2003年には仲間と劇団MIUTOを旗揚げしました。弓道は昨年からはじめ、今年は県民スポーツ祭に出場予定です。

藤田玲菜さん紹介

貝皿在住。大野高校2年生

趣味：歌うこと。大野高校では合唱部に所属。

今年のブラスバンド部定期演奏会にも参加

特技：体が柔らかいこと。誰とでも仲良くなれること。

性格：かなり積極的ですが、たまに空回りしてしまうことも・・・。



前岡おじさんこと前岡博司先生と

県で開かれる高校総体に向けて、毎週土曜日と日曜日、あわら市の北瀧湖で練習しています。カヌーと出会ったのは小学五年生の時。家の隣に福井工業大学の教授で福井県カヌー協会理事長の前岡博司先生（前岡おじさんと呼んでいるそうです）が引っ越してきて、カヌーの楽しさを教えてくれたことがきっかけで、最初のころは下半原ふれあい湖畔で遊びでカヌーに乗っていました。今年最初に出場した大会は五月にあった国体予選の北信越大会で、種目はワイルドウォーターレーシングでした。この大会では三位までに入賞すると九月下旬に開催される国体に出場できます。練習場所は足羽川にあるコースで、福井豪雨の影響がまだ残っていたため、あまり練習ができませんでした。結果は残念ながら四位でした。

彼女が取り組んでいるのは、フラットウォーターレーシングとワイルドウォーターレーシングです。

フラットウォーターレーシングは静止湖で五百メートル（また

は千メートルのタイムを競います。ワイルドウォーターレーシングは千五百メートルの川の急流を下り、タイムを競います。そのほかにスキーマの大回転に似たカヌースラロームと、五対五であるハンドボールのようなカヌーポロという競技があります。

夢はいつか

目指せ国体

「本格的にカヌーを始めて一年ちょっと。練習時間も少ないのに、高校総体まで出場できることになり、自分でもすごいと思っています。出場することに意義があると思うので、最後まであきらめず頑張りたいです。高校卒業後は大学に進学し、カヌーも続けて行くつもりです。新たにカヌースラロームにも挑戦していきたい」。

そう語る彼女も来年は三年生。受験勉強で大変になりました。それと目指せ！国体。そんな彼女に、前岡おじさんから一言「プレッシャーを楽しみながら、これからも頑張つてカヌーを続けてほしい」。

玲菜さんに聞いたカヌーの魅力

川の急流を下るワイルドウォーターレーシングでは、波の流れにうまく乗らないとチン（ひっくり返ること）したり、いろいろな所にぶつかってたくさんあざができてしまいます。でも流れに乗るとまるでジェットコースターに乗っているみたいですごく楽しい。フラットウォーターレーシングは日に当たる時間が多い上に、一度乗ったら2、3時間は当たり前です。途中に出ている救助船で飲み物をもらって水分補給をしています。変な日焼けができてしまうのが悩みの種ですね。

リポーターのつぶやき

変な日焼け…長い間、ひざを曲げて乗っているので日に当たっている表側だけが焼けてしまい、裏側は焼けずに真っ白。予防対策に金額の高い日焼け止めを塗っているみたいです。女の子なのに大変ですね。

リポーターから一言

今回初めて玲菜さんに出会い、私たちが忘れていた何にでも挑戦し頑張る力を見せてもらった気がします。そんな彼女の活躍を見て、たくさんの方がいろいろな事にチャレンジしてくれると良いなと思います。これからも自分に自信を持って、いろいろな大会にチャレンジしていただく。私も玲菜さんの活躍を応援しています。



西史司コーチと



ぐるーぷ登場

富田まこもクラブ



市民のページ

マコモタケ 特産に



マコモタケはイネ科の多年草で、成長すると2m以上の高さになります。写真は追肥をしているところです。

富田まこもクラブは、マコモタケのことを雑誌で知ったメンバーの一部が、特産として栽培している石川県津幡町に視察に行き、株を分けてもらったことから結成しました。現在十五人のメンバーで活動しています。

マコモタケは池や沼で育つイネ科の多年草で、成長すると葉の高さが2mを超えます。五月中旬に株を植えて、九月下旬から収穫を始めます。成長が早く、一日で刈り取りの適期が変わるため、ほぼ一カ月、毎日刈り取り作業が必要となります。

クラブでは当初、深い湿田で栽培していました。しかし高さがあがるため、収穫作業が大変で、深い湿田自体が地区内に少ないことから、メンバーの田んぼで栽培できないか試行してみたそうです。その結果、すねくらいの深さの田んぼでも栽培できることが分かり、現在十八坪で栽培しています。収穫したマコモタケは地区の夏まつりや運動会で地域住民に紹介してきました。「食材としてのマコモタケは、浸透してきたように思います」とメンバーの松田薫さん。



ふわわ女性の会に協力してもらい、炊き込みご飯や卵とじなど、さまざまな料理に挑戦しています。

あなたも紙面に参加しませんか。希望する方は、情報広報課まで ☎0779・66・1111



高橋 昌亨さん (66歳・高砂町)

高橋さんは、越美北線の全線復旧を記念して行われた「越美北線の四季フォトコンテスト」で銀賞を受賞しました。

—写真はいつから撮り始めましたか

最初にカメラを手に取ったのは、中学生の時でした。スタート35というポケットに入るくらいの小さな安いカメラを買い、友達の写真を撮っていました。昭和43年の越前大野城再建時のコンテストで2位に入賞してから、いろいろなコンテストに応募するようになりました。



—今回の作品について教えてください

コンテストのことはJR美山駅で偶然見たポスターで知り、平成17年の九頭竜新緑まつりで撮った写真のことを思い出しました。駅にいる人の楽しげな表情や雰囲気が撮れたらと思い、シャッターチャンスを狙っていました。自転車が曲がって、こいでいる恐竜の横顔が見えるまで待っていたのを覚えています。電話で受賞の知らせを受けた時は、まさかと思ってびっくりしましたね。

—写真への思いは

いつも車にカメラを積んでいて、いい風景があるとつい車を止めて撮影しますね。自己満足で写真を撮っていますが、賞に選ばれるとやっぱり嬉しいです。風景写真は対象を絞って撮影したいと思うのですが、失敗ばかりでまだまだ思うようにはいきませんね。



銀賞作品「まつりの日」

「楽しい雰囲気狙った」

越美北線フォトコンで銀賞

新着図書

〔一般小説〕

仕事と人生 (城山三郎) 逆立ち日本論 (養老孟司) 大人の太鼓判 (辰巳浩) 農のある人生 (瀧井宏臣) 再婚生活 (山本文緒)

〔ファンフィクション〕

菅刈 (辻井喬) ちんぷんかん (畠中恵) 戦力外通告 (藤田宜永) 銀しゃり (山本一力) かつてまま (諸田玲子) バライゾの寺 (坂東眞砂子)

〔児童図書〕

ねずみ女房 (ゴッデン) しょにあそぼう (オニエフル) 地球動物記 (岩合光昭) もしもねこがしゃべったら (ロウ) ともだちみつけ (那須正幹)

〔絵本〕

のりのりこさん (かとうまふみ) ニューワと九とうの水牛 (小野かおる) よじはんよじはん (ユンソクチュン) めーくぬく (飯野和義) ぐりんぱっ (まつおようこ) 空になつたかがみ (住井すゑ)



読書のススメ



『昭和のこどもたち』

石井美千子 人形制作・文
山本邦彦 撮影
清流出版 刊

福井市出身の人形作家石井さんの作品集です。昭和30年代、忙しく働く大人の傍らで、子供たちは自由に遊びました。その姿を人形にして、自然の中で写真に収めました。表情豊かで満足げな顔をした人形から、何をするのも一生懸命な子供の姿が見てとれます。同時代を生きた大人たちと、未来を作っていく子供たちへの思いが込められた本です。
※この作品の写真パネル展が、8月31日まで有終会館で開催されています

イトヨさん大きくなってね

本願清水イトヨの里で7月3日、開成保育園園児による七夕飾りの贈り物とイトヨ稚魚の放流が行われました。日ごろ遊びに来ているお礼にと毎年行われているもので、5歳児35人が参加。「イトヨの赤ちゃん元気で大きくなってね」と声を合わせながらゆっくりとバケツを傾けていました。



「昭和のこどもたち」写真パネル展

昭和30年代をイメージした人形を昭和の面影が残る実際の風景の中で撮影した写真パネル展が6月30日から始まりました。このパネル展は福井市出身の人形作家石井美千子氏と写真家山本邦彦氏が協力し、初めて実現したものです。市では8月31日まで有終会館で展示した後、各小中学校や福祉施設などでの展示を予定しています。



有終東小6年の林美冬さん

“少年の主張” 熱心に

7月1日、有終会館で青少年健全育成推進大会を開催しました。青少年の育成に尽力した指導者や啓発手紙入選者の表彰のほか、少年の主張では3人の代表が命の大切さなど訴えました。

半夏生サバを運んで60^{キロ}。

江戸時代からの風習「半夏生サバ」にちなみ、越前町から大野市まで歩いてサバを運ぶイベントが行われました。約60^{キロ}の道のりを参加した16人は無事歩き切り、さっそく市内の鮮魚店で丸焼きしたサバを食べていました。



7月1日越前町小樽を出発する参加者



話題のひろば



お父さんと遊ぼう

普段、仕事などで育児参加しづらい父親にも子供たちの遊ぶ様子を見ながら触れ合ってもらおうと6月23日、子育て支援センターで「お父さんと遊ぼう」が行われました。支援センターでは秋ごろにも同様の企画を行う予定です。

隊員120人 放水競う

7月8日、真名川憩いの島グラウンドで大野市自衛消防クラブ放水競技会が開催されました。消防クラブや婦人防火クラブの隊員約120人が参加。小型ポンプによる放水やバケツリレーを通して消火技術の正確さなどを競いました。



奉仕できれいになりました

大野勝山塗装工業協同組合による庁舎の外観塗装が、大野市管工事業協同組合による水源地周辺の草刈り作業がそれぞれ行われました。



(6月8日市役所)



(6月22日南部配水場)



笑顔！で「いただきます」⑤

鶏肉と野菜のごまじょうゆあえ



材料（一人分）

※分量は給食の献立に基づき表示

- ・もやし 30g・ニンジン 5g
- ・ホウレンソウ 10g
- ・キャベツ 50g・鶏肉 25g
- ・酒 1g・いりごま 1g
- ・塩 0.25g
- ・しょう油 3g
- ・ごま油 1.5g
- ・砂糖 0.5g

調味料A

子供たちの健康を支えている給食献立から「鶏肉と野菜のごまじょうゆあえ」を紹介します。

給食からもう一品



作ってみよう

【まず】

ニンジン、キャベツは短冊切りに。もやし、ホウレンソウ、ニンジン、キャベツはゆでて冷ましておく。細かく切った鶏肉は塩をして蒸し、冷ましておく。

- ①冷ましておいた材料の水気をよく切り、調味料Aを合わせたものであえる
- ②いりごまを加えて混ぜる

達人のワンポイントアドバイス

鶏肉はむね肉かささみを使うと良いです。下準備で鶏肉を蒸す時に、塩と一緒にお酒を少し入れることで鶏肉のくさみが消えます。鶏肉に味も付いて、野菜とも味がよくなじむようになります。

（学校調理師 南江さおりさん）



市民のうごき

平成19年7月1日現在

世帯数	12,297世帯（-4世帯）
人口	38,992人（-36人）
（男）	18,609人（-20人）
（女）	20,383人（-16人）

◆6月中の内訳

転入	40人	出生	21人
転出	66人	死亡	31人

職場体験学習の一環で市役所を訪れたもので、広報紙作りの手伝いとして聞き取りや写真撮影を体験しました。うちわ作りに励む子供たちに「出来上がったらずまず誰に見せたい」「なぜこの色合いにしたの」などと質問。ある男子生徒は「作り終えたばかりのうちわであっている写真を撮影したい」と、思い通りのシャッターチャンスをつかんで撮っていました。（林）



南都児童センターでの「うちわ作り」の取材に、開成中学校二年生五人が同行しました。

編集後記



今年はずーとニヤ現象による猛暑であり、残暑もきびしいと伝えられていた。この暑さに負け、夏の献立は偏り気味になる。そうめんや冷ややっここというさっぱり物か、手軽なカレーライス、時には焼肉にビールと、こんな食生活が続くと夏やせどころか、メタボリックシンドロームに一直線である▼以前、「広報おの」で紹介した図書でメタボリックシンドロームにならないコツ「ちよい太でだいじょうぶ」をちよい太の私は興味があり読んだ。少しだけ太っていることは、免疫力を高め、感染症にも強くなり、がんにかかりにくい体になれる。この「ちよい太」がいいので「おお太」や「太々」にならないよう維持するために食生活の改善と運動習慣が必要だという。要するに食べた人は動きなさい、なのである▼先日、東京都の食品会社が、食育について全国の小学生の母親と学校栄養士を調査したところ、栄養士からは「朝食抜きの子供が増え、家庭への食育が必要だ」。一方、母親からは「本当は家庭ですべきだが働いていると余裕がない。健康でいるにはどうしたらよいかを学校で教えてほしい」。両者の意識の違いが浮き彫りになったと報道されていた▼健康の基本は、命の源である「食」がかかわっているというのだが（小林）

発行 福井県大野市

編集情報 広報課 広報広聴係 ☎0779・66・1111



PRINTED WITH R100

この広報紙は、古紙配合率100%の再生紙と環境に優しい大豆油インキを使用しています。